

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 獣医学科

職階 教授

氏名 河合一洋

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

私は生産獣医学系の産業動物に係わる教員です。私の本学の大学教育における役割は、より多くの学生に生産動物に興味を持ってもらい、本学からより多くの産業動物獣医師（産業動物臨床獣医師および県職獣医師）を輩出することです。そのためにこれまでの臨床経験を活かし、下記の担当科目について学生に臨場感のある教育をすることが重要と考えています。その教育内容は、産業動物獣医師の仕事の概要、家畜の管理衛生、食品としての畜産物、家畜疾病予防など幅広く、講義科目では畜産学から獣医学にわたる基礎知識を、実習科目では畜産環境における検査から実際の症例を診ながらの獣医学における診断、治療、予防技術について教育を行っています。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
産業動物臨床基礎実習	獣医学科	選択	1	128
いのちと共生論	動物応用科学科	選択	1	137
牧場実習	獣医学科	必修	2	136
獣医畜産管理学	獣医学科	選択	3	146
畜産物利用学	獣医学科	選択	3	140
家畜衛生学Ⅰ	獣医学科	必修	4	140
家畜衛生学実習	獣医学科	必修	4	140
基礎・産業動物獣医総合臨床	獣医学科	必修	4	140
産業動物獣医総合臨床	獣医学科	必修	5	130
産業動物臨床実習	獣医学科	必修	5	130
産業動物アドバンス実習(牛)	獣医学科	選択	6	2
獣医学特論Ⅰ	獣医学科	必修	5	3
獣医学特論Ⅱ	獣医学科	必修	6	3
卒業論文	獣医学科	必修	6	3
家畜人工授精特別実習	動物応用科学科	選択	4	45
総合獣医学	獣医学科	必修	6	175

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

私のミッションである本学からより多くの産業動物獣医師を排出するという信念は、現在社会が抱えている産業動物獣医師の不足に起因します。現在充足していると思われるNOSAI北海道や道職員ですら充足できていない状況で、府県においてはその傾向は更に強く、また偏りがあります。日本の畜産を永続させていくために、それをサポートする獣医師は無くてはならない存在であると考えております。したがって、関東圏において長年産業動物教育に力を注いできた本学にとっては、今後も更により良い獣医師を排出することで社会に貢献しなければいけないと考えています。具体的には、学内の衛生管理区域内にある家畜飼養施設、実習場をフル活用し、より充実した参加型臨床実習を行うとともに、獣医療の技術だけでなく、産業獣医師としての心構えや考え方など実学的な教育を展開することで、バランスの取れた獣医師を育成していきたいと考えています。

このことが本学の価値を高め、社会に大きく貢献していく大きな柱となっていくものと考えます。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

これまでの教育についていつも重要視していることは、できるだけわかり易く、実体験に基づいた自分の言葉で話をすることです。多少脱線した話でも自分の経験を話すことで学生に興味を持っていただくことが第一で、その次に科学的な理論に沿った話であると考えています。

(1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

アクティブ・ラーニングについての取組有産業動物臨床実習や家畜衛生学実習ではグループワークなどの参加型実習を取り入れながら教育を行っています。

(2) ICTの教育活用

有

ICTの教育活用有ICT活用はこれからの課題ですが、学理以外のツールも研究しながら活用していきたいと思えます。4年次学生はiPad必携の学年であることから、家畜衛生学実習では資料のペーパーレス化に心がけiPad内でメモを記入できるようにいたしました。

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

B

産業動物に興味の少ない学生（小動物臨床獣医師志望学生）においては、一部の学生において講義実習共に消極的な学生も見受けられますが、現在馬、山羊、綿羊など、産業動物種でありながらペットとして飼うケースも増えていることから小動物臨床志向の学生にとっても重要であることを理解してもらい、できるだけ興味を持ってもらえるように現場の話を多く盛り込みながら話をしたりするなど心がけています。今後は更に双方向の学習ができるように授業方法に創意工夫を凝らさなければいけないと強く感じており、他の先生の授業も参考にしながら取り組もうと思います。

(2) 学生の理解度の把握

B

講義ではできるだけ実践の（現場の）話を盛り込みながら、また実習ではできるだけなぜこのことが求められているのかを伝えながら学生の理解が進むように心がけています。

(3) 学生の自学自習を促す工夫

B

できるだけ次の時間への課題や問いかけを話すことで自学自習を促すことに心がけています。

(4) 学生とのコミュニケーション

A

特に実習ではこのことについてどう思うかなど、学生とのコミュニケーションを取るよう心がけており、質問への対応も丁寧に行っています。

(5) 双方向授業への工夫

B

講義での双方向授業はなかなか難しい部分があり、創意工夫が必要と感じています。

(6) 国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

A

国家試験対策は、例えば4年次であっても通常の講義の中で重要な点は強調して伝えるなど工夫をしました。6年次の総合獣医学についても教科書の重要な部分を例に勉強の仕方について教示しました。

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

例えば講義では、より理解を深めるような講義資料の作り方、説明の仕方を工夫しました。

(2) (1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

(1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題授業評価は、概ねよかったと思います。

(3) (2)を踏まえた次年度の取組

(2)を踏まえた次年度の取組更に実学教育を目指して臨場感のある教育を行っていきたいと考えています。

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

今後も常に国家試験を意識した授業に心がけていこうと思います。

(2) (1)の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

学生からの評価は授業評価によって把握します。研究室内での卒論研究については、学生のモチベーションを保持するため必ず在学中に一人一回は学会発表を行うこととしており、優秀な発表は学会発表等で賞をいただくなど第三者からの評価も得ています。

7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

FD研修会には都合のつく時はできるだけ参加し、参考にするように心がけています。

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

最終的な自分のミッションである本学からより多くの産業動物に係わる獣医師を排出することを達成するために、短期的には卒業後の就職状況で産業動物に係わる学生の増加を確認しながら、本学を関東圏では最も産業動物獣医師育成に力を入れている大学として認知していただけるよう努力することです。現状では波はありますが、年々増加しつつあります。近年は大動物の開業獣医師のもとに就職する学生もいて、実際はもう少し増加していると考えています。2022年度はNOSAI 北海道との包括連携協定を推進し締結しましたが、2024年度はNOSAI福島と包括連携協定を結び、その後も画像診断の教員と遠隔画像診断についての推進を進めています。今後は麻布大学を中心に全国の獣医師の卒後教育にも力を入れ、さらに内外共に内容の濃い実学教育を実現し、獣医師の育成に努めていきたいと考えています。

9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

麻布大学HP、全国NOSAI、NOSAI 北海道 資料